



## ポンパノパークでの口取り風景



## 開放感あふれるガルフストリーム競馬場のパドック



競馬場とは思えない、ガルフストリーム競馬場のスタンド

# 世界旅打ち気分

## ●第2回・フロリダ

須田鷹雄

写真のカラー版は  
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>の  
#グリーンファーム会報#2018年2月号  
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

インのカジノになつており、収益性重視の色彩が強い。

カジノなどと皆さんはルーレットやカードゲームを想像するだろうが、アメリカでは圧倒的にマシン（スロットマシンやビデオポーカー）が幅をきかせている。これは経営側としては好都合で、人件費が抑制できる。昔のように「コインの両替もハンドペイ（高額でコインの払い出しでは追いつかないとき、直接札を渡す）もなくなった現在、カジノは以前ほど雇用を産んでいないが、利益は産みやすいのだ。

フロリダの場合、州法の関係なんか分からないが、基本的にはマシンゲームしかない（後日説明する）

しても公営競技の斜陽化という問題はよしたわっているのだが、その流れを否定し、楽しい遊び場としての競馬場を強調するデザインになっている。

にも立ち合わせていただいたりした。同時に、向こうの事情が分かってきたり、インターネットで収集できる情報が増えたりして、「旅打ち」を楽しむ余裕もでてきた。

日本で最も有名なトレーニングセールのひとつがファシングタイプトーン・フロリダセールだが、かつてはコールダー競馬場が舞台だった。競馬場としての面白みはさほどないのだが、セリ馬の下見をするとき

のフロリダ州だった。20年ほど前の」とで記憶が定かではないが、確かにトレーニングセミナーの取材で行き、そのときは現地のことがあまり分かつていなかつたため、遊びとしての旅打ちはしなかつた(できなかつた)のではないかと思う。

それからフロリダには何年か取材で通うこととなり、グリーンノアームで海外遠征(ドバイ)を果たしたアースリヴィングを購買する場

前回は私がはじめて海外旅打ちした香港について書かせていた  
だいた。

蘇った競馬場もある。こちらは逆にマイアミ側にあるハイアリアパーカ競馬場は01年3月の開催をもって休催となり、04年には開催免許も失つて完全廃止となつた。ところが、Racinoの成功が明らかになつた09年、競馬場所有者が新たに開催免許を取得し、再度競馬場としてオープンした。

しかもこの時、なんとクオーター・ホースの競馬場として再オープンしたのである。アメリカは基本的にクオーター・ホースは西部寄りの、ハーネスは東部寄りのものであり、例外はサクラメントにあるハーネスの競馬場（カルルエクスボ）くらいだった。にも関わらずクオーター・ホ

が、逆にカリフォルニアではマンシングームが置けない)。Race-inoはパチの巨艦店のようなものだが、そのブレイクは斜陽化しつつあった公営競技を一気に蘇らせることにつた。

のカジノ事情を説明しなくてはならない。  
もともとフロリダではカジノが許可されておらず、ポーカールームがあるだけだった。カジノはいくつかの会社が「カジノ船」を運営していた。これはバハマなどカジノが合法化されている国の船籍を持つ船を使い、フロリダの港から公海上まで行って（公海上では船籍のある国の法律が適用される）、そ

に業務エリアの施設を利用するの  
はけつこう面白かった。下見の合間  
に食事をするときは廃務員さんた  
ちの使う食堂に行くのだが、壁に  
は「(賭け)カードゲーム禁止」の標  
語が貼つてあつたりして、向こうの  
廃舍従業員の文化というか雰囲  
気が感じられたものだった。またそ  
の食堂の近くに廃舍用の馬具屋  
があり、日本では売つていない品物  
を頼まれて買いだしたりもしたも  
のだった。

そのファシングティップトン・フロリ  
ダセールは現在ガルフストリーム  
パーク競馬場に舞台を移している  
が、「この競馬場は装いを大きく変  
えた競馬場である。そのいきさうを  
説明するにあたつて、まずはマイア  
ミ・フォートローダーテール近辺

だけではない。ドッグレースもハリウッドという場がカジノを併設してマルティグラと改称して大成功。フラグラーなど他のドッグレース場も追随した。またフロリダにはハイアライという、スカッシュの親玉のような競技に賭けるものがあるが、マイアミハイアライ、ダニアハイアライともにカジノを併設している。

ースの競馬場としてオープンしたのは、賞典費を抑えつ(大レースをやらず)にRace-one有利権を確保しようという狙いがあったのではないだろうか。現在は6月の1ヶ月だけライブレーシングを行い、他の時期はサイマル発売とカジノ運営を行っている。競馬はカジノのために渋々やっているというのが本音かもしれないが、それでも廃止競馬場が蘇つたのだからありがたい話だ。

ストリームだけがRacing化される」となったのである。

ガルフストリーム競馬場は、単に敷地内にカジノを作るというだけでなく、大規模な改築を行つた。99年にブリーダーズカップを実施した頃とくらべて収容人員は少なくなつたが、デザイン的にも美しいスタンドを建て、カジノだけでなくショッピングモールも併設したのである。アメリカにお

でカジノゲームをさせるものだつた。

ところが15年ほど前からマイアミ近辺でもカジノ合法化の議論が始まリ、郡との住民投票を経てカジノを始めるところが出てきた。私の記憶では、最初にオープンしたのがフォートローダーデール空港近くのハードロックホテルだったと思う。

商売敵の「上陸」に対して競馬はどう立ち向かったか。それはカジノを自分の施設内に抱え、いわゆる「Resort」として再スタートしようという戦略であった。ところが初期の住民投票で、ガルフストリームについてはカジノ賛成の結論が出たものの、コールドーについては反対派が上回り、まずはガルフ